

おかちまち たいとう

台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第10号

令和7年2月17日(月)

校長 福沢 俊之

TEL 03 (3831) 3787

学校ホームページ



<https://www.taito.ed.jp/swas/index.php?id=1320111>

↑更新中

「地域に愛され、応援される学校」に…

校長 福沢 俊之

2月3日土曜日、「立志のつどい」を行いました。「立志のつどい」は1年生の「入学式」、3年生の「卒業式」と同じ儀式的行事といわれています。主役である2年生の参列態度、その背中を見ながら一生懸命合わせようとしていた1年生も大変立派でした。2年生は、練習を重ねる中で、1年前の現3年生の後ろ姿も思い出してくれていたのではないかと考えています。各クラスから選ばれた3名の代表生徒は、これからの生き方、将来の夢や希望を、自分の決意とともに堂々と発表してくれました。「志」と呼ぶに相応しい内容だったと思います。また、「立志のつどい」第二部の講師にお迎えした女子バスケットボール、元日本代表の大崎佑圭(おおさきゆか)さんからは、トップアスリートに上り詰めるまでの貴重なお話を伺うことができました。例えば、苦しいときをどのように乗り越えていくか、その心の持ち方について、参考になることがあったのではないのでしょうか。

日頃より本校を支えてくださっている地域の方々、多くの保護者の方々にも参列していただきました。特に、学校行事の折にはいつもお出でいただいている地域の町会長さんからは「厳粛な雰囲気です晴らしかった。」「地域にとって誇りの学校だ。」とおっしゃっていただきました。中学校の卒業は義務教育9年間の修了であり、生徒一人一人、自分の選んだ道を進むことになります。社会とのかかわりは大きく広がりますが、どのような社会においても快く受け入れてもらえるように、基本的なふるまいを中学時代に身に付けておくことは大切であると考えています。地域の方々に学校行事を通じて生徒の様子を見ていただいたり、さまざまな体験学習やボランティア活動などを通じて生徒と直接かかわっていただいたりすることは、本校の生徒がどのように成長しているかを検証する貴重な機会であると捉えています。

1月25日土曜日、台東区立中学校7校の生徒会本部役員が集まって、毎年恒例の「中学生サミット」が開催されました。本校からも生徒会長と副会長2名が出席し、「魅力ある学校をつくるには」というテーマで、本校の活動や方針を発表してくれました。その中で、「御徒町台東中学校の伝統であるあいさつを取り入れた活動を行い、生徒一人一人にあいさつへの意識を持ってもらうこと。ボランティア活動で、地域の方から『愛され、応援される学校』になること。」「私たちは、人とのかかわりを深めつつ『地域とのつながり』を大切にすることができる学校を目指していきます。」と話してくれました。教育の目指すところには、「社会の形成者」「社会の創り手」「社会に貢献できる人」のように、社会とどうかかわるか、にあります。生徒会の活動方針として、「人とのかかわりを深める」、「地域とのつながりを大切にする」を掲げ、具体的な取組を考えて実践することは、生徒自ら育つことにつながると考えます。

地域の方々には、いつも、御徒町台東中学校の生徒を温かく見守ってくださっています。「立志のつどい」のように1年生が2年生の背中を見て、3月の「卒業式」では2年生が3年生の背中を見て育っていく、そのような好循環を生み出し、保護者、地域の方々の誰もが生徒の成長を実感していただける、魅力のある学校にしていきたいと思えます。

立志の言葉

たゆまぬ努力

2年1組

みなさんは、「雨垂れ石を穿つ」ということわざを知っていますか？ほんの一粒の小さな雨粒でも年月が経ち、積み重ねていけば、いつかは大きな石でも割れるような大きな水の流れになるという事です。これと似たことわざに「ちりも積もれば山となる」ということわざがありますが、積もり、山となるだけでなく石をも穿つ威勢のよさが感じられるこのことわざのほうが私は気に入っています。この立志の作文を書くにあたり、これからの将来を見据えていく上で、私はこのことわざを人生の基盤として日々の生活から小さな努力を積み重ね、どんな課題でも乗り越えていけるような大人になりたいと考えました。大人になれば環境も立場も学生の頃とは大きく変わります。一朝一夕の努力では、乗り越えられない壁も出てくると思います。そんな中でも、めげずに、たとえ失敗が続いても諦めず努力ができる人になれるよう、学生の頃からたゆまぬ努力を続けていきたいと思っています。

私は昔から一つの事を長時間続けることが苦手です。一つの物事を長く続けるのがとても大変でした。習い事や勉強など集中力を必要とするものなどはすぐに飽きてしまいます。ですが、これから大人になっていく過程で、強い忍耐はとても大切なものだと思います。なのでこれからは作業などを途中で辞めたくなくなってしまっても、「あともう少しやってみよう。」という気持ちを胸にもう一步踏み出す力を身に付けていきたいと思っています。

最後に、「大人」の定義に正解はないと思いますが、少なくとも私は逆境を乗り越え、強い忍耐力を持っている人なのではないかと思っています。これからの人生の先には多くの困難が待ち受けていると思います。それでも、「雨垂れ石を穿つ」このことわざを胸にどれだけくじけても立ち上がり、石をも穿つ思いでまた新しい一步を歩き続けられるような大人になりたいと思っています。

将来の夢

2年2組

私の将来の夢は、日本にある外資系の会社で働くことです。理由は二つあります。

まず、外国の文化が好きだからです。私は昔から外国に興味があります。その国によって文化や生活の仕方が違い、とても面白いです。例えば、日本では車は左側通行ですが、多くの外国では右側通行だったり、日本ではチップを渡す文化はありませんが、北アメリカやヨーロッパ、中東の地域などではチップを渡す文化があったりと、日本では当たり前だと思っていたことが違う国に行く当たり前ではないのが面白いと思います。ほかに、自然が綺麗な所や、食文化が異なる所が好きです。

次に、日本と外国の架け橋になりたいからです。外国との架け橋の先駆者になった新渡戸稲造さんは『願わくは、われ太平洋の橋とならん』とおっしゃっています。この意味は、日本の思想を外国に伝え、外国の思想を日本に普及させるために働きたいという意味だそうです。新渡戸稲造さんはその後、日本と外国の架け橋となって国際連盟の設立や、外交官としての活動を行います。私はこの話を聞いて、新渡戸稲造さんのように日本の思想も外国の思想も互いの国に伝えられるような人になりたいと思いました。

そのためには、たくさん努力や準備が必要です。英語力はもちろん、外国で働くための専門的な知識を習得することや、様々な人と関わり、コミュニケーション能力を向上させることなど、社会に出て働くために、今のうちから準備しておかなければなりません。私は残りの中学校生活で学習習慣を身につけることや、生活習慣を改善することに力をいれ、日々の当たり前に捉われずに様々な視点で物事を考え、将来日本と外国を繋げられるような人になりたいです。

将来自分がしたい事

2年3組

私の将来の夢はプロサッカー選手です。なぜならサッカーが大好きで、小さい頃からずっと見ていたからです。私が五歳の頃、サッカークラブに入っていました。実力がなく試合に出場させてもらえない事が多くありました。次第にサッカーをするのが嫌になり、クラブチームを辞めました。サッカークラブを辞めた後は色々なスポーツをしました。しかし一番楽しいと思ったのがサッカーで、もう一度やりたいと思いました。だから私はサッカー選手になりたいです。そのためには、まず努力を続ける事が大切だと思いました。小さい頃からずっとサッカーを続けている人たちとは大きな実力の差があるからです。その差を縮めるために私は部活動が終わった後は、サッカーの練習を始めました。しかし、部活動の練習がきつい日などは、サッカーの練習を休んでしまうこともありました。そんな時には、やっぱり自分の弱さがでてしまっていると感じます。

私は弱い自分が大嫌いでした。自分が決めた道なのに毎回諦めてしまい、努力する事が大事だと分かっているがすぐにやめてしまう。そんな自分が嫌いでした。でも、努力を続ける事が出来れば、人として一つ成長できるのではないかと思いました。なので、改めて生活習慣から変えることにしました。朝早く起きる事から始めて、一日十分家で勉強をするなど自分がたてた目標に対し、少しずつ努力を続ける事が出来ました。そして今ではサッカーの練習を毎日最低でも二時間は出来るようになりました。

努力をできるようになった今、自分に自信ができた気がします。またどんな事も挑戦すれば、できると思うようになりました。今からサッカー選手になるのは無理だといろんな人に言われる事もあるけれど、自分が挑戦すると決めた道なので、周りの人から何を言われても気にせず自分と向き合い、努力を怠らずサッカー選手を目指します。